第８８９号
令和４年１１月２８日

佐渡市立金井小学校
佐渡ことば・こころの教室

# 教室だより

〒952－1209
佐渡市千種丙178番地1
TEL:0259（63）4156（直）
4115（代）
FAX:0259（63）4117
E-mail:skotoba@sado.ed.jp
HP:http://kanai-es.sado.ed.jp
（教室だよりのバックナンバーも掲載中）

## 個人の問いをみんなで考える

佐渡市立赤泊小学校
校 長　田 村　稔

「人は死んだらどこに行くのか」これは先日行った全校でのｐ４ｃ（ピー・フォー・シー）という話合いのテーマです。ある５年生の疑問について，全校の子どもたちが円座になって話し合ったのです。テーマの候補は「人はなぜ生きるのか」「スイカの縞々はどうしてあるのか」「扇風機は前だけに風が吹くのはどうしてか」など 60 以上にも上りました。実際の話合いでも多様な意見が出され（中には衝撃発言も！），参加者は楽しく充実した時間を過ごしました。

それにしても，自分が出したテーマについてみんなで話し合ってもらったという体験は，その子にとって大きな喜びとなり自己有用感が向上したことでしょう。同じように自分の発言に対して「そうだね」「なるほど」などの評価を得るのは自己肯定感を高めることにつながると思います。そして，それは，子どもの生き方にも大きく影響すると思います。子どもが話したことをしっかりと受け止め，子どもの自己有用感や自己肯定感といった非認知能力の向上につなげたいと思います。

## 宿題せずにゲームをしてしまうのは意志が弱いせい？

Ａさんは家で宿題をせず，翌日の休み時間に学校でしていました。弟がゲームをしていると勉強に集中できず，自分もゲームをやってしまうのだと教えてくれました。

ベストセラーになった「スマホ脳」で，ある調査結果が紹介されました。記憶力や集中力の調査をしたところ，スマホを「サイレントモードにしてポケットに入れた」グループと「室外に置いた」グループでは，後者の方の成績が良かったというものです。類似した複数の実験でも同様の結果が見られたそうです。ゲーム機やスマホは簡単に新しい情報や刺激や興奮を与えてくれます。それらをまた得たくなるように作られています。そのため，<u>身近にあるだけでも，他へ向けるべき集中力にマイナスの影響を与えてしまう</u>ようです。

「集中力に弱さがある」子は，ゲーム機やスマホの存在の影響を特に受けやすいと言えます。そういった子が家で宿題に向かえるようにするには，何らかの配慮が必要です。「子どもの宿題中は保護者もゲームやスマホを使わない」「宿題が終わるまでゲーム機やスマホを保護者が預かっておく」等，<u>存在を意識しないで済むよう「環境を調整する」</u>とよいようです。お子さんと一緒に考えてみるといいですね。ちなみに冒頭のＡさんですが，別室で宿題をするようにしたところ，宿題を終えられるようになったそうです。自分で環境調整。さすがです。

（中村　哲裕）

## 静かな闘魂

息子が中学生の頃，部活動の試合を見に行った。対戦校の生徒は友達の名前を叫びながら，みなぎる闘魂応援だ。なのに息子たちは静かに試合を見守っている。物足りなくなった私は，息子に「何で大声を出さないの」と聞いてみた。息子曰く「プレッシャーになるから」だった。友達がなのか，息子がなのか…。静かな闘魂で試合が進んだ。

通級の授業で絵カードを使い，自分だったらどうするかを考える課題がある。大抵の子は「こうありたい自分」を話してくれ，私は安心する。でもその中で時々「本当の自分」を話してくれる子がいる。道端で泣いている子がいても何もしない。何と言ったらいいかわからない。声を掛けるのが怖い。他の人が声を掛けるから。自分が言わなくてもいいから…。その子たちは，今の自分に照らし合わせて，誠実に「できない」と答える。

授業では，絵カードの場面に応じて「こうした方がいい」行動を役割演技で練習をする。練習してその方がよいと分かっても，実際に行動することは難しいかもしれない。また，息子の試合の如く，その時は練習したこととは違う行動がベストと考えることもあるかと思う。

授業の最後に，「この(絵カードの)子が怪我をしていたらどうする」と聞いてみた。すぐに「大人に言う」とその子たちは答えた。一番大切な時に**自分のできることを決断できる**。静かな闘魂は，心の中にしっかりとあった。

（坂井直子）

## お知らせコーナー　筑波技術大学

日本でただ一つの聴覚障害者，視覚障害者のための国立大学ということで，佐渡ことば・こころの教室に大学案内がきました。進学の際の参考にしてください。

お子さんの進学や自立について，学校や関係機関への早め早めの相談をお勧めいたしします。

## 親の会コーナー

### 保護者の声

**中学生保護者**

娘が小学校６年生の時，起立性調節障害という病気になり，血圧を上げる薬を飲み始めました。中学校に入学後，しばらくして症状が良くなりましたが，その頃には，娘は教室に入ることができなくなっていました。この頃，娘とのふとした会話の中で「学校での居場所がなかった」と言う言葉を聞き，私は胸がしめつけられ悲しい気持ちになったことを思い出します。そんな時，通級の先生との出会いがあり，たわいもない会話を楽しみに学校に行けるようになりました。その後，状況が変わってしまっても娘のために，忙しい中足を運んでくれ，娘のそばに寄り添っていただいたこと，親として感謝の言葉しかありません。今では元気を取り戻し，笑顔が増えたことを実感しております。早いもので娘も中学校卒業の時期が近づいて来ました。これからは，かけがえのない人との出会い，ふれ合いを大切に一歩一歩，前に進んで行ける様，励まし応援していけたらと思います。

## お知らせコーナー

９月 26 日に判定会議が開かれ，入級希望の幼児・児童・生徒 43 名全員の入級が認められました。判定委員の皆様，ありがとうございました。

入級された皆様には，親の会の案内と会費（後期分）のお願いをお渡しいたします。よろしくお願いいたします。